

# みどりの樹

第15号

2003. 春



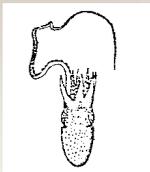
— 附属博物館収蔵品 ⑩ —  
**アオイガイ**  
*Argonauta argo*

採集地・山形県鼠ヶ関 メス  
殻長一七〇mm 写真は殻のみ

乳白色の美しい殻を持つアオイガイは、別名「カイダコ」とも呼ばれ、実は貝の仲間ではなく、タコ的一种です。名前の由来は、殻を二つ向かい合わせに置いた形が「葵の葉」に似ていることから来ているそうです。熱帯や亜熱帯の海域に広く生息していますが、この標本は対馬暖流に乗って、温海町鼠ヶ関まで流れ着いたものでしょう。

殻を持つのはメスで、オスは無殻で体も小さく、体長十五mmほどしかありません。メスは殻の中で産卵し、その中で孵化するまで卵を育てます。

タコやイカなどの頭足類が、同じ軟体動物として、貝類と近縁であることを示す明確な例と言えるでしょう。



(山形大学附属博物館長 中川 重)

# 二十一世紀の 大学病院の役割

嘉山孝正



かやま たかまさ

山形大学医学部附属病院長  
専門：脳神経外科学

大学に改革が求められています。日本の国立大学は明治時代に、列強に肩を並べるべく、文系、理系とも整備建設されました。従って、旧帝国大学の下、各大学や専門学校が各々の役割を持って色々な仕事をしてくれました。一方、宗教学や法学を勉強しようとし、市民レベルで創設された欧米の大学とは育ちも組織、即ち資金源も異なります。市民の間から自然発生したのですから、資金源は市民（国民が税金として支払う事も同義）が賄い、本来は政治や経済とは直接関係はしないことが原則です。従って、独自の見識で社会をリードし、柔軟に物事の解明、解決及び教育を施行してきたのです。

一方、太平洋戦争敗戦後、日本の大学は新制大学として戦前とは異なり、与えられた自由の下、創設されました。しかし、やはり自然発生したものではありません。さらに、戦前とは異なりその目的も仕

事内容も独自性（あったとしても少数）がなかったものですから横一列の状態となりました。全ての大学が画一的になってしまったのです。小東大化しました。戦前よりさらに特色がなくなった、と言っても良いと思います。この問題を解決する為には特化した研究や学問をする事だと思えます。小東大でやるうとしても、施設も人員も東大とは異なります。自分の目の前に幾らでも研究材料があります。それを自分の持つていく方法を工夫して独創的なことを施行する事だと考えます。そうすれば、生き生きした創造的な大学になると考えます。

さて、大学病院です。大学病院は一般の病院とは明らかに異なります。医療そのものはどの病院でも同じであるべきです。しかし、大学病院が存在基盤（必要である理由）を持つとしたら、医療そのものもやはり一般病院とは異ならなくてはなりません。即ち、少なくとも、その地区では医療の質（知識、技術、倫理）は最高でなくてはなりません。その地区で最高で、さらに世界的な高度な医療を開拓していく義務があるのです。知識、技術が最高である事に加えて、倫理面でも最高でなくてはなりません。研究という名の悪魔の下での人体実験などはとんでもない事でありませぬ。医療の面でも一般の病院と異ならなくてはなりません。

さらに、医学研究を行う義務があります。全ての大学病院が同じことを欧米の二番煎じで行わずに、自分の患者から発生する臨床問題を遺伝子や分子生物学レベルまで発展させ研究すれば、独創的な研究成果が出てくると思えます。

さて、三番目の役割は教育であります。医療人の教育は一般病院ではできません。医学部（医学科、



医学部構内にある「医聖ヒポクラテス像」  
医の原点を唱えたギリシャの人  
(紀元前460 - 375年)

あるのです。

以上、二十一世紀の大学病院の役割を記載してみました。しかし、以上の仕事は私自身が体験してきた場所では当たり前と想っております。しかし、最近の多くの事実（その一つの結果がプリミティブ的な医療事故）が、医学部に限らず、その他の学部を含めて多くの大学で、自らの仕事をあたかも放棄したような状態が沢山あることを白日化しました。

山形大学病院は、大学としての自らの仕事を明確に認識し、更に結果を出していく病院として、教職員全員が認識しています。向後、最高の医療、教育研究成果が出てきます。事実、医療で大切な医療事故防止の体制は日本でもトップクラス（本年度の第二回全国大学病院医療安全協議会は本院が当番校で主催いたします）ですし、卒後臨床研修でも他の大学病院のお手本になっております。また、研究分野でも、全国学会の事務局を持つ教室も出てきました。その結果、病院評価では日本病院機能評価機構の「バージョン4」を本年一月に合格しました。この評価は日本で唯一の第三者評価機構がしたもので、全国の多くの病院では十五番目（東北では唯一）で、大学病院では京都大学病院に次いで二番目です。安心して、山形大学病院をご利用ください。

## 文章の価値について

清塚 邦彦

私は人間文化学科で「哲学」「人間情報科学」の二つの専攻コースを担当していますが、双方での指導の中でいつも気になるのが、表題に掲げた「文章の価値」についてです。

日常生活の中では、多くの場合、文章を読む目的はそこに盛られた知識を獲得することにあります。その典型は、新聞やテレビのニュース報道で見聞きする文章の場合でしょう。この種の文章は、受け取る側が知識を手に入れれば用済みになりますから、特殊な関心でもない限り、古新聞やニュースの録画テープを大切に保管する必要は感じられません。

これと似た事情は理工系の研究文献にも見られます。例えば、人間情報科学コースの同僚である人間工学の先生はよく、過去三年間の関連文献を調べないように学生に指示します。三年というのは大まかな目安ですが、概してそれ以前の文献は後の研究によって刷新されている公算が高い、というのが指導の趣旨です。

私も一面ではその趣旨に共鳴します。最新の研究状況が分からなければ美りある研究を望みにくいことは、文系理系を問わず、すべての研究者が認める所でしょう。ただ、複雑な思いは残ります。私が哲学の研究・教育の中で扱った重要文献のほとんどは三年以内」という条件に抵触するからです。私に限らず、昔から哲学徒は、三年どころか、時には三千年

も前の著作を取り上げ、その丹念な読解に膨大な時間と労力を注いできました。

こうした事情は、私なりに釈明すれば、古来哲学の問題とされてきたものが、簡潔に表現すればするほど、捉え所のない問題であることと関連します。例えば、いきなり「真理とは何か」と問われても、何が問われているのか分かりかねます。あるいは、「なぜ人を殺してはいけないか」でも構いません。この種の問いに関しては、答を求める以前に、そもそも問いに意味があるか、どんな意味でならば問うに値するかを慎重に吟味する必要があります。哲学徒が古い文献と付き合ってきたのも、多様な問いに対するいまだ刷新されていない回答がそこにあると考えるからではなく、それぞれの問いが正確にどんな形で立てられ、どんな関連議論が展開されてきたかを知りたいからです。それは自分の取り組むべき問いを見極める作業の一部でもあります。この脈絡では、文章は知識の媒体というより、問題を理解する道具という方がびつたりします。そして、文章がこの用途にどれだけ耐えるかを評価するさいに、文章の新しさは必ずしも重要な要素ではありません。

文章のこうした役割が哲学という分野に固有だと言いつもりはありません。最終結果としての知識をより多く伝えるだけでなく、それを導く問いや論証についての理解を深めることは、分野を問わず、大



学教育の最も重要な任務の一つでしょう。とはいえ、文章の二つの役割にそれぞれだけの比重を置くかについては、分野ごと、また教育の段階に応じて微妙なばらつきがあるはずですが、言わずもがなと言われそうですが、私の二つの担当コースが比重の置き方の点で両極端に偏りがちであるせいでしょうか、適度なバランスの見極めということがいつも意外に難しい課題として頭を離れません。



きよづか くにひこ

山形大学人文学部助教授  
専門：言語哲学・記号論  
美学

# 見えない光で“人の内部”を見る研究

丹野直弘  
佐藤学

## 光って何ですか？

光は、暖かな春の光、蛍光灯の光、CDに使う光と私たちの身の周りに溢れています。目に見えない“波”なので、その正体は不思議に思えるかも知れませんが、二枚の金属板に電池をつなぐと板の間は“電界”と呼ばれるちよつと変わった空間になります。そこで電池の極性を早く切り替えると、この電界が空中に飛び出します。これが電波で、これは水面を伝わる波のように空中を波として伝わります。このときこの山と山の距離を“波長”と呼びます。光は、電波の仲間での波長が異なります。テレビの場合ですと1m程度ですが、光ですとその百万分の一の長さ程度です。身の回りの“色の違い”は、この“波長の違い”なんです。

## 光を使うと何がいろいろですか？

もう、お使いになられたかも知れませんが、病院で用いられているX線CTや磁気を用いたMRI、また人間ドックなどで使用される超音波エコーは非常に優れた断層画像を測定する方法ですが、これらで見られる細かさは、 $0.1\text{mm} \sim 1\text{mm}$ 程度です。しかし、ガンの早期診断などでは一つ一つの細胞を見る必要があるのです、さらに一桁から二桁以上の細かさ

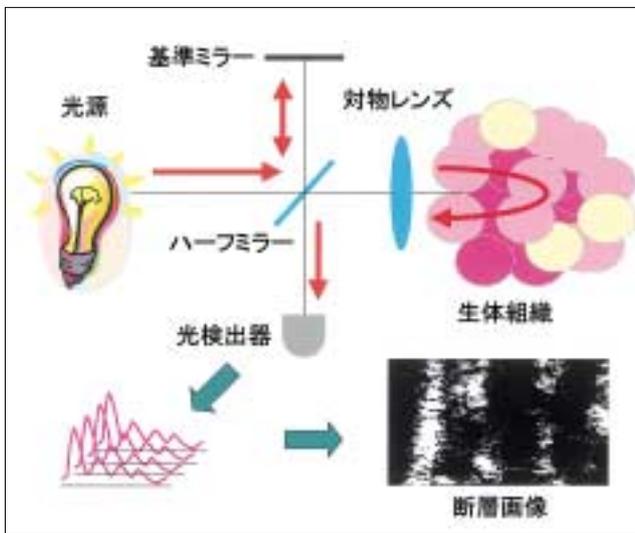


図1 OCTのしくみ

で見る必要があります。光を使って断層画像を測定する技術(OCT)では、これが可能です。さらに、弱い光を使うので人体に害がなく、不透明な組織でも測定できるなどの長所があります。

## どうして光で、生体の内部が見えるのですか？

OCTのしくみを図1に示します。ここでは生体

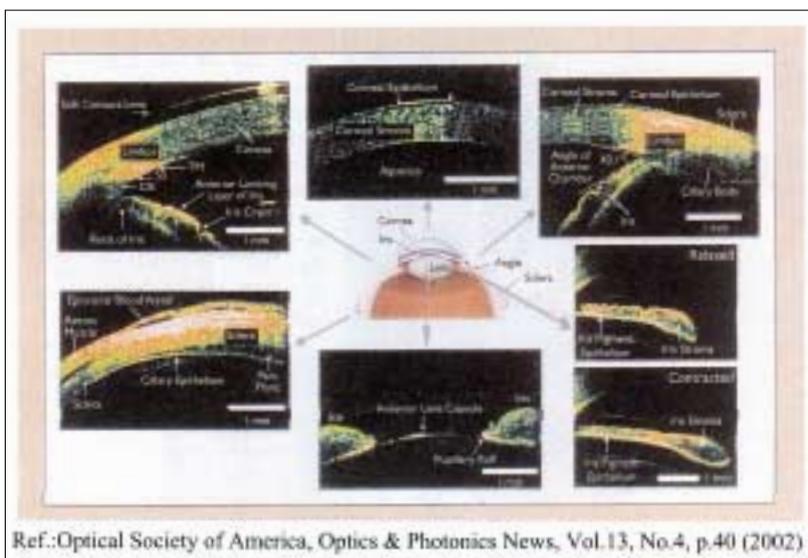


図2 眼のOCT画像

組織に比較的内り込む目に見えない“近赤外光”を用います。この光を“干渉計”に入射させます。まず、入射された光は、ハーフミラー(HM)に入射され、二つに分けられ、一方の光はレンズで絞られて生体組織に照射されます。光は屈折率の違う境界で反射が起こります。水面がキラキラするのは、空気と水の屈折率が違うからです。生体組織は立体的な構造があるので、屈折率も構造に伴って三次元的に分布していますから、照射された光によって、至る所で反射光が発生します。この反射光はレンズに戻ります。他方の光は、基準位置となるミラー(MR)で反射され、組織からの反射光と共に光検出器に入

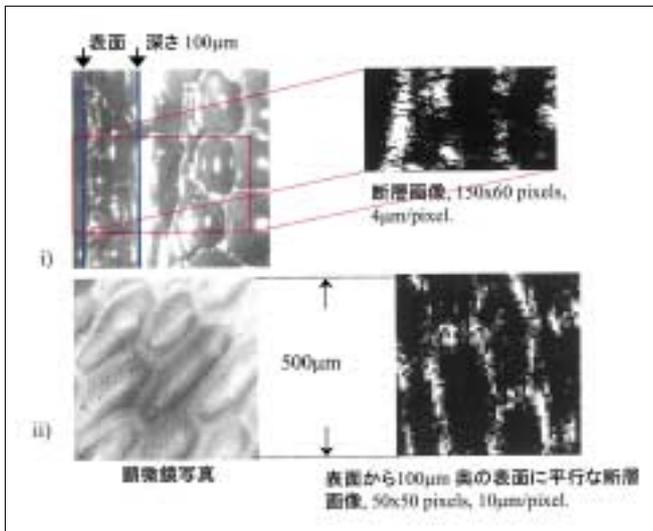


図4 玉ねぎの顕微鏡写真とOCT画像

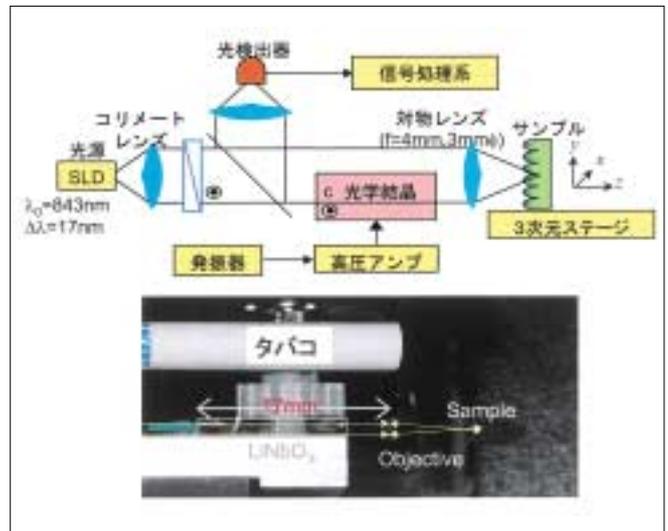


図3 測定システム

射します。光検出器からの電気信号は、MRの位置で選り出した反射光の強さを表すので、MRを動かすことにより、深さ方向での反射光強度分布が測定されます。次に、組織への照射位置の横方向へのシフトと深さ方向の反射光強度分布の測定を次々に繰り返すことにより断層画像が測定されます。

何を研究して、将来どんな広がりがあるか考えられますか？

現在、OCTで目の角膜や網膜付近の断層画像が図2のように測定され、医療の現場で役立つています。また、循環器系では冠動脈、消化器系では食道・胃・小腸・大腸・結腸・直腸、皮膚科、歯科と広い臨床応用が検討されています。我々は、OCTのさらなる臨床応用拡大と汎用化のために、図3に示すような小指の先ほどの小型OCTや体表の数ミリの孔を通して臓器内部が測定できる新しいOCTの研究を行っています。図4は図3のシステムによる測定例です。OCT自体を小型にすることによって、内視鏡との融合化による機能化や低価格化が可能になり、より多くの人に使って頂けるものになるのです。OCTは、今後、人にやさしい幅広いテクノロジーとしての成長が期待される一方、医学・生理学を越えた他の産業への応用も多く期待されています。

どんな風に研究を進めるのですか？

我々の研究室は、ちよつと長いんですが、山形大学大学院 理工学研究科の生体センシング機能工学専攻に所属しています。この専攻は、動植物を含む生体という、最高のシステムから学んで、これを

対象とする新しい科学を創ろうというものです。研究室での研究は、大学院生が主体で進められます。大学院では、学生に研究テーマが与えられ、先生と一体になって研究が行われ、毎週のゼミなどを通して、一步一步進められます。まともれば学生が学会等で発表をします。あなたももちろんできると思いますよ、他の学生も皆それなりにやっていますから。また、研究は重要ですが、研究室での花見、バーベキュー、旅行、芋煮会、離散会などのイベントを通じた「お付き合い」も社会勉強として大切です。さあ、あなたもいっしょにやりませんか？興味があったら、遊びに来てみてください。



さとう まなぶ

山形大学大学院  
理工学研究科助教授  
専門：生体光計測



たんの なおひろ

山形大学大学院  
理工学研究科教授  
専門：光エレクトロニクス  
生体光情報計測

## 食

PART 4

新「医職充」とFECの地域内自給圏構想  
山形大学農学部附属農場の小さい実践

大 高 全 洋

「食」とは文字通り「人」を「良」くする営為(いと なみ)です。そのことについて、医学の祖、ヒポクラテス(紀元前四六〇 三七五)は「ディアイタ(diaita)の思想を説いています。今日流行のダイエットは規定食すなわち美容・健康保持のための食事の量・種類を制限することですが、その語源です。

彼は「人間の本来あるべき健康な生活の仕方」を説き、光と空気と水、食べ物と飲み物、運動と休息、眠りと目覚め、排泄と代謝、「こころ」(感情)の動き、の大切さを指摘し、これら六つのいずれが欠けても人間の生命は健康に生きられないと論じています。また、貝原益軒(一六三〇 一七二四)は『益軒十訓』などで養生学を説き、外邪、節欲(食欲・性欲・性欲・睡眠欲)、感情のコントロール、について具体的な処方箋を書き残しています。

この二人の先人に学ぶものは、食を単なる食べ物やダイエット食に矮小化することなく食べ方、さらには生活のあり方の問題として思索していることです。山形大学医学部の図書館二階にヒポクラテスの像と碑文がありますが、彼の先駆的な思想と実践は山形大学全体で共有し合いたいものです(二ページの写真参照)。

ところで衣食住は英語で「Food, Clothing and Housing」と書きます。Foodが筆頭です。その大切

な衣食住に加えて新しい「医職充」論が台頭しています。医療・健康問題、職業・仕事の問題、そして何よりも充実感・生きがいの喪失が社会問題化しています。特に第一次産業である農林漁業の衰退は深刻で、職の創出(仕事づくり)が町づくり、村おこしの緊要な課題になっています。そのなかで注目されるのがF(食料)、E(エネルギー)、C(ケア)の地域内自給圏構想であり、その地道な実践です。

そのFについて身近な事例を紹介しましょう。いうまでもなく日本の穀物自給率は二七%、世界では韓国、イラクに次ぐ一二九番目です(一九九九年、農水省試算)。その供給熱量総合食料自給率を国内の地域別にみますと全国四〇%、山形県は一二七%で北海道、秋田に次ぐ全国第三位。最下位は東京(一%)、そして大阪(二%)、神奈川(三%)の順です。山形県内の市町村別では最高が藤島町の四九一%、最低は山形市の二六%で、米沢市は六四%、鶴岡市は九〇%となっています(二〇〇〇年度)。

写真1は本学の農場水田での学生実習(除草作業)風景です。栽培された低農薬のお米は自分たちで出資・利用・運営する山形大学生活協同組合の食堂で「ご飯となり」自給「しています(写真2)。今年で四年目に入りますが、二〇〇二年度の場合、農学部では通年、小白川、飯田および米沢キャンパスは十月から翌年二月までです。農学部の卒業生たちが県の



写真1 大学農場での水田実習風景



写真2 大学生協食堂での美味しいご飯(農学部)

試験場で開発した「はえぬき」のお米全量が学内で流通し、消費されています。因みにその作付面積は六・五ヘクタール、収穫量は五八五俵(精米で三二、五九〇kg)で、どのキャンパスでも美味しくなつたと好評です。

総合大学としての山形大学が産・官・学に加えて消費生活者(消)と共にFECの地域内自給圏づくりに貢献し、学生が国内外の各地域で人格の全面的な成長・発達をし続けることを夢見てペンを置きます。



おおたか ぜんよう

山形大学農学部教授  
専門：食料・農業経済学  
協同組合論

## 大学院連合農学研究科 留学生が県知事賞受賞

留学生日本語スピーチコンテスト

去る十二月一日(日)、第十五回留学生日本語スピーチコンテストへ山形県経済同友会等主催)が、県内の外国人留学生・研修生を対象に開催され、大学院連合農学研究科で農業経済学を学ぶクンデ・タルン・カンテイさん(バングラデシュ出身 下段顔写真)が最高賞の県知事賞を受賞しました。

このコンテストは、留学生の日本語修得の動機づけと、留学生と県民の交流を目的に毎年開催されているもので、今回は県内の大学や短大、福祉施設で学ぶ七カ国、二十人の留学生と研修生が



参加。国際交流や高齢者ケアなどそれぞれのテーマでスピーチを行いました。

受賞したタルンさんは、日本で生まれ保育園に通う二歳の子供のお父さんでもあり、「子供に愛の種をまきましよう」と題し、母国の高い新生児死亡率や貧困などを例に挙げ、国家や社会全体が子供を守り育てていくことの大切さを訴えました。

なお、他の受賞者は次のとおりです。

山形経済同友会賞	李 玉玲 (中国：大学院医学系研究科) 「日本の高齢者ケアから学んだこと」
山形ロータリークラブ賞	ジャリ アナク ヌガ (マレーシア：工学部) 「十一歳の少年」
国際コミュニケーション・レディスクラブ賞	エレナ ナギナ (ロシア：教育学部) 「日本でロシアについて考えたこと」
山形テレビ賞	トウルムンフ オドントヤ (モンゴル：人文学部) 「『おしん』のふるさと」
審査員特別賞	楊 萌 (中国：大学院社会文化システム研究科) 「心の中に交流の橋をかけよう」

## ラグビー部 全国大会初出場

本学ラグビー部は、東北二部リーグで優勝し、来季の一部リーグ初昇格を決め、一月に開催された第五十三回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会に出場、創部三十八年目にして、初の全国大会出場を果たしました。

九月に放火とみられる火災により部室が全焼しユニフォームやボールなどの用具を焼失、そんな困難を乗り越えての快挙として新聞などでも大きく報道されました。



焼失した用具等の購入、全国大会への遠征費用については、OBの方や教職員などからあたたかい支援をいただく一方、講義や練習の合間のアルバイトを行っての全国大会出場でした。

名古屋の瑞穂ラグビー場で行われた大会では、一回戦で関西地区代表の大阪市立大学と対戦しましたが、善戦及ばず敗退、残念ながら念願の一勝を挙げることはできませんでした。

### 大会結果

一回戦  
山形大学 3 .. 46 大阪市立大学  
(関西地区代表)

### \* 大会出場の報告

ラグビー部主将

埜中 俊克(人文学部三年)  
残念ながら力及ばず、一回戦突破という目標を達成することはできませんでしたが、しかし、全国のレベルを肌で感じる事ができたことは、部員にとってこれからの活動の大きな糧となったのではないかと考えています。来シーズンにはこの全国での経験を活かし、強豪ひしめく東北一部リーグでよい結果を出せるよう、精一杯頑張ります。これからも山形大学ラグビー部をよろしく願っています。

# 再発見された川崎繁夫作《閃光》

(山形高等学校旧蔵)

山形大学では、附属博物館を中心に少なからぬ美術品を所蔵しています。このたび、かつてその中であつて半ば忘れ去られていた石膏像が、大正時代に活躍した寒河江出身の彫刻家の、貴重な現存作品であることがわかりました。

## 一枚の古い写真から

再発見のきっかけは、ふすま同窓会(旧制山形高等学校、以下「山高」と山形大学文学部、同人文学部及び理学部合同の同窓会)が平成十二年に発行した写真誌『ひかり北地に』の三十五頁に掲載された二点の写真にふと目が留まったことでした。それは大正十三年に竣工なった山高の校舎内の教官食堂を写したのですが、そこにはかなり大きな、見覚えのない彫像が置いてあるのです。写真説明では、作者は新



「ひかり北地に」より転載

海竹蔵ではないかとされており、現在は、ふすま同窓会館に置かれていていること。

いささか興味を覚えたので、昨春秋、元木幸一先生(人文学部・西洋美術史)と山形美術館学芸員の岡部信幸氏(人文学部OB)にもご足労頂いて、くだんの像に会いに行くことにしました。像は、ふすま同窓会館の事務室に、学帽を被って立っていました。材質は彩色された石膏で、重量感と迫力に富み、作者の力量が伝わってきました。

何か作者を示す手がかりはないかと観察するうち、土台に彫られた「Sigeo」という署名に気がつきました。さらに作風から見ても、新作ではないということにはつきりました。その後、山形美術館の加藤千明学芸主幹にご意見を伺ったところ、作品の正体

が判明しました。これは、大正期に東京で活躍した彫刻家、川崎繁夫(一八九二—一九二四)の作品《閃光》でした。

## 川崎繁夫と《閃光》

川崎繁夫は、寒河江在住の父・鐵之助の次男として生まれ、のちに上京して、日本近代彫刻の大家、朝倉文夫に師事しました。ちなみに妻は谷崎潤一郎の姪でした。繁夫は早くから頭角を現し、一九一三年、今の日展の前身にあたる「文展」(文部省美術展覧会)に入選します。以後ほぼ毎年、文展とその後身「帝展」に作品を発表していきます。

ところが、彼の順調な歩みは一九二四年の第五回帝展(無鑑査で《相剋》を出品)を最後に、病死によってあまりに早く断たれてしまいました。妻の富子がすぐに後を追ったので、「天才彫塑家」夫妻の悲劇として当時の新聞でも

山形美術館・加藤千明学芸主幹のお話  
近代彫刻史の中で山形出身作家の活躍ぶりは突出していますが、中でも川崎は、その経歴の面でも文学的な興味をかき立てられる作家です。この作品を  
実見すると、写真で見た以上に量感、ヴォリューム  
感を感じます。ぜひ修復した上で、広く展示に供さ  
れることが望ましいと思います。



## 山形大学地域貢献シンポジウム開催

平成15年1月23日(木)、山形市内のホテルにおいて、「地域と大学とのハーモニーをめざして！ - おらほと大学なじよすつべ -」をテーマに、山形大学地域貢献シンポジウムを開催しました。



このシンポジウムは、地域と山形大学とが一緒になって何ができるかを探るため、市民の皆様と大学とが率直に意見交換する場を作ろうと本学が初めて企画したものです。

当日は、県内各自治体の方や市民の皆様及び本学教職員等約200名の参加があり、最初に県内各地域から4名のパネリストを迎え、山形大学の地域貢献を題材とした話題提供、その後、学内から3名のパネリストを加え、第1部「山形大学は何が足りないのか」、第2部「山形大学が目指す方向」としてパネルディスカッションを行いました。

シンポジウムでは、「もっと情報発信をしっかりとしてほしい。」「大学はまだまだ敷居が高い。」「大学に何か相談しようにも窓口が分からない。」「“A先生”からは世話になっているが、“山形大学”から世話になっているという実感はあまりない。」等の厳しい意見・要望が寄せられ、山形大学は、市民の皆様からみれば、まだまだ距離があり、分かりにくいものであることを痛感させられてしまいました。

一方、「地域貢献は、統一的なテーマを決めて推進してはどうか。」「小中高校生らにもっと大学を開放すれば、お互いに刺激になるのでは。」等の具体的な提言も数多くいただき、今後は、山形大学としての“顔”が見えるような形で地域と連携して行く地域貢献の必要性を再認識した次第です。

このシンポジウム開催に当たっては、私どもスタッフが大学のPRを兼ねて県内各市町村を訪問し、日頃感じていることを直接お伺いしましたが、山形大学は、地域の方々に理解されていない部分も多いことを感じてまいりました。

地域に根ざす大学として、近い将来、地域の皆様からも山形大学が真に「おらほの大学」と呼ばれる存在感のある大学に生まれ変わる必要性を切に感じながら、今回のシンポジウムが山形大学の地域貢献の新たなスタートになるものと確信しております。

最後になりますが、山形大学の地域貢献に関する総合窓口は総務部企画室〔研究協力・連携推進室〕(TEL 023-628-4845)になっておりますので、どうぞお気軽にご相談いただけますようお願い申し上げます。

山形大学地域連携推進協議会委員

小山 清 人 (山形大学工学部教授)

報道されました。

その四年前、一九二〇年の帝展出品作『閃光』の写真を見ると、現在ふすま同窓会館に置かれている作品がまさにそれであることが分かります。師の朝倉が「是れ迄の作品の中で最も出色のもの」と評している通り、この像は内側から盛り上がるような力感を感じさせ、若き彫刻家の気迫にあふれた作品です。

### 残る謎 なぜ山高に？

夭折したこともあり、この才能ある彫刻家の作品はあまり残っていないようです。特に、等身大を超える『閃光』のような作品は、今のところ他に確認できないため、一層貴重といえます。それでは、な

ぜ本作が山高に所蔵されるに至ったのでしょうか。制作年と山高の創立年(一九二〇年)が近いことを考えると、何らかの縁で寄贈されたのではないかと推測されますが、しかし、大学に残る資料からは、長く旧教養部の所蔵品であり、近年同窓会館に移されたとのいきさつ以前の経緯は確認できません。この点については、今後時間をかけて、地道に調べる必要があるでしょう。

いずれにしても、この像は若々しい芸術が花開いた大正期の息吹きを伝えていきます。そしてこのような優れた作品が山形大学に伝えられていた、という事実をご報告できるのは、大きな喜びです。大学では、破損している部分の修復など、必要な環境整備

を行った上で、この貴重な作品を公開できるよう努力していきたいと考えています。

なお、この場をお借りして、快く調査にご協力いただいた、山形美術館の加藤千明・岡部信幸両氏に厚くお礼申し上げます。

(阿部成樹・人文学部・西洋美術史)

山形大学では、この作品に関する情報を集めています。どのような情報でも結構ですので、お心当たりの方は左記にご連絡いただければ幸いです。

山形大学総務部総務課文書広報係

TEL: 〇二(三六二八)四〇〇八

FAX: 〇二(三六二八)四〇〇三

Eメール: [sombun@jm.kiyamagata-u.ac.jp](mailto:sombun@jm.kiyamagata-u.ac.jp)

# 平成15年度 山形大学公開講座を開設

本学では、教育・研究を社会に開放し、市民の皆様幅広く学習の機会を提供することを目的に、毎年度公開講座を開設しています。来年度は、次の12テーマの講座を開設予定です。（開催場所は、各テーマの（ ）内に記載の実施部局になります。）

## 世界の信仰・思想・他者理解 ～イスラム・インド・東アジア・ヨーロッパ～（人文学部）

- ・世界各地において宗教や価値観の相違が紛争や戦争を誘発し、日本に住む我々の生活を脅かしかねない現在、信仰や思想のあり方が他者理解（誤解）とどのように関わってきたのかについて考えていきます。  
開催期間等... 6月17日(火)～7月4日(金) 毎週火・金曜日 計6回  
受講対象者... 一般市民・学生・高校生 30人

## 現代社会の不安とリスク、及びその予防（人文学部）

- ・社会システムの複雑化・多様化に起因する個人の主体性の喪失等により、社会生活における安定性は害され、不安の著しい増大が認められる現代。このような現代社会の不安とリスクに焦点をあて、その発生メカニズムを探り、さらにその対応について、法律学の観点から具体的な問題を取り上げて考察していきます。  
開催期間等... 10月4日(土)～25日(土) 毎週土曜日 計4回  
受講対象者... 一般市民・学生・高校生 30人

## 山形の魅力再発見（人文学部（都市地域学研究所））

- ・21世紀の山形地域の活性化と発展に寄与すべく、歴史・経済・環境工学・医学・看護学の観点から山形の魅力と課題、またその解決策などを探ります。  
開催期間等... 6月7日(土)～28日(土) 毎週土曜日 計4回  
受講対象者... 一般市民・学生・高校生 30人

## 親子で考えるための理科教室（教育学部）

- ・小学校の教科書で取り扱われている実験を取り上げ、実験・観察、理論の構築等を行うことにより、科学の面白さを体験します。結果として、子どもと一緒に科学の話題で弾む家庭環境を築くことを目的とします。  
開催期間等... 6月7日(土)～7月5日(土) 毎週土曜日 計5回  
受講対象者... 一般市民（母親または父親）20人

## 希望としての教育～教育基本法と教育大学院～（教育学部）

- ・今、「教育とは何か」が鋭く問われています。希望としての教育を提唱する「教育倫理学」に立脚して、教育大学院という新しい大学像を提案していきます。  
開催期間等... 6月20日(金)～7月18日(金) 毎週金曜日 計5回  
受講対象者... 一般市民 30人

## 小・中学校における軽度発達障害児の理解と指導（教育学部）

- ・通常学級に在籍する学習障害(LD)児や注意欠陥/多動性障害(ADHD)児等の軽度の発達障害児をどのように理解し、支援を行ったらよいか、実践に役立つ研修を行います。  
開催期間等... 8月30日(土) 1回(6時間)  
受講対象者... 教育・心理・福祉に関わる方 60人

## 宇宙から深海まで～ゴミと資源とニュートリノ～（理学部）

- ・理学部で行われている多種多様な研究の中からホットな話題を紹介いたします。「不思議な素粒子ニュートリノ」や「リサイクル社会は地球を救うーゴミは豊かな地球資源ー」など。  
開催期間等... 6月21日(土) 28日(土) 計2回(6時間)  
受講対象者... 一般市民・大学生・高校生 100人

## 高齢者介護と医療の最前線～理論と実際～（医学部）

- ・高齢が故に発生する心身の諸問題とその対策に焦点をあて、医療・介護の現場で役立つ実践的な内容で構成、介護保険の現状と今後の課題を解説し、高齢者の看護と服薬に関する注意点や高齢者特有の疾患の予防並びに治療法等を紹介いたします。  
開催期間等... 9月20日(土)～10月4日(土) 毎週土曜日 計3回  
受講対象者... 医師、看護師、医療介護関係者 50人

## 体のなかの形と働きを外から診る最新技術～生命の不思議を解き明かす先端技術～（工学部・理工学研究所）

- ・体の状態を外から観察して、生命現象の解明や医療に役立てる生命工学の最新技術を分かりやすく紹介します。  
開催期間等... 9月6日(土)～27日(土) 毎週土曜日 計4回  
受講対象者... 一般市民 50人

## 庄内砂丘と海岸林～その歴史と未来～（農学部）

- ・冬季に季節風を受ける日本海沿岸では、林帯の造成に力が注がれてきた永い歴史があり、今後、海岸林への多様な要求が強まるものと予想される反面、人為的な海岸の改変が進み、「白砂青松」といわれる景観は失われようとしています。この庄内地方の砂丘と海岸林についての理解を深めるとともに、その将来について考えていきます。  
開催期間等... 6月14日(土)～7月12日(土) 毎週土曜日 計5回  
受講対象者... 一般市民 50人

## 旅の博物学～観光、巡礼、渡り鳥～（附属博物館）

- ・奥の細道を旅しなかった芭蕉なんて考えられるでしょうか。どうして人間は旅をし、旅を思索し、想像するのでしょうか。いや、旅は人間だけのものなのでしょうか。他の生き物の旅をも射程に入れ、人間の旅の文化における意味を多面的に追求していきます。  
開催期間等... 10月11日(土)～25日(土) 毎週土曜日 計3回  
受講対象者... 一般市民 30人

## ネットワーク利用はここまできた～技術動向からリモート講義まで～（総合情報処理センター）

- ・コンピュータとネットワークについて、最新の技術動向、利用形態・状況を具体的に紹介しながら、ネットワーク社会の今後を展望します。  
開催期間等... 9月3日(水)～24日(水) 毎週水曜日 計4回  
受講対象者... 一般市民 各会場20人(計40人)  
リモート講義システムによって、山形地区と米沢地区で受講できます。

公開講座に関するお問合せ先：総務部企画室研究支援係 023-628-4845

「みどりの樹」に対するご意見・ご質問等をお気軽に寄せてください。お寄せいただいたご質問等には、本紙面に「皆様からのQ&A」コーナーを設けてお答えさせていただきます。

〒990-8560  
山形市小白川町一丁目4-12  
山形大学総務部総務課文書広報係  
TEL 023-628-4008  
FAX 023-628-4013  
Eメール sombun@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

この「みどりの樹」は、インターネットでもご覧になれます。  
アドレス <http://www.yamagata-u.ac.jp>

「みどりの樹」は、3月・6月・9月・12月に発行する予定です。

### 編集後記

しばしば、料理された肉や野菜が形をかえ、大きさが日ごと小さくなり、最後は絶品のスープになるといわれている。もちろん、洪水の食糧不足からではない。食べ残した食材を、翌日には別の料理にして使い切るためなのだろうと息子さんは推測していたという。

考えてみれば家庭生活や個人生活の中では当然のことを、個人主義を尊重しながら同時に社会性のある共同生活の中で無理なく実践する強さに、彼の地は未経験の私もある種の感動を受けたほどである。これからは、本来社会性を持つべき外食産業やセンター方式の学校給食は、まず残飯(ゴミ)を出さない食事にかえるべきである。そつちを放っておいて、二の次の大量の残飯リサイクルしか考えつかないところに、我が国の不幸があるというのが友人と私の結論だった。

(広報誌編集委員会委員 菊間 満)

山形大学 各種催事案内

お問い合わせ先、山形大学総務部総務課文書広報係まで  
(013-628-4008)

平成十五年度 山形大学入学式  
四月八日(火) 十時三十分  
山形市 山形県体育館



この印刷物は再生紙を使用しています。